

○ 新会長に石井高洋氏が選出、より実質的な認定店での販促活動に注力—TOKYO X

東京のブランド豚「TOKYO X」の流通・販売関係者で組織するTOKYO X アソシエーション(植村光一郎会長)は10日、東京・新宿区の京王プラザホテルで18年度総会を開いた。総会では、17年度事業報告や18年度事業計画・収支予算案などを原案通り承認。役員選定では、新会長に三越伊勢丹グループ、エムアイフードスタイルの石井高洋氏(外販統括部、仕入・卸食品部畜産担当バイヤー)が選出された。副会長にはミートコンパニオンの伊藤晴規氏(フードサービス部長)を新たに選出し、新任理事には西友の足立勝氏(商品本部、生鮮食品部、畜産部シニアダイレクター)、京王プラザホテル八王子事業部の石田政士氏(八王子事業部総料理長)の2人が新たに就任した。

総会の冒頭で植村会長(=写真④)は「アソシエーションは今期で19期目を迎える。17年の出荷頭数は9,623頭となり、1万頭には惜しくも届かなかった。生産体制や販売体制を強化し、来年度には1万頭超えを目指していきたい。また18年にはインバウンドが3,200万人に上ると見込まれており、それを踏まえTOKYO Xは生産の優位性や生産工程の優位性、アニマルウェルフェアをより一層アピールしていきたい」とあいさつした。また今年度の新たな取組みとして、「これまで同協会の一元管理で販促を行ってきたが、20年の東京オリ・パラに向けて認定店に軸足を移し、現場に落とし込むことで、消費者に身近なものとして楽しんでもらえるようにしていきたい



い。認定店で試食を行うなど、販売の活性化に注力していく」と意欲を見せた。

18年度の事業計画では、①共同生産出荷に関する協議②流通、販売等の検討及び実施③枝肉目合わせ会の実施④トレーサビリティ検討委員会会議の実施⑤生産拡大委員会の実施⑥東京オリンピック・パラリンピック対策協議委員会の実施—などを実施する。

上述のとおり同協会の新体制として、消費者交流会などの協会としての活動を控え、認定店主体の独自の

BtoCに軸足を置く体制を構築するとした。認定店への販促活動と情報発信の充実を図るため、店舗への具体的な補助を行うなど実質的な販売活動にシフトしていく。

またTOKYO Xの格付規格改定を行い、これまで第5肋骨と第6肋骨の間を切開し、そのロース芯で肉質判定を行っていたが、6月1日以降は第4肋骨と第5肋骨の間の切開に変更する。これは日本食肉格付協会のPMS(ポークマーブリングスタンダード)の判定基準に合わせた変更となる。

最後に新会長の石井氏(=写真⑤)から、「2年後には東京オリ・パラが開催される。まさにTOKYO Xが話題になることが間違いのないこの年に会長として指名をいただいた。植村会長がこれまで築き上げた信頼を維持しながら、さらなるTOKYO Xのブランド力強化を目指す」とあいさつするとともに、今後の抱負を述べた。

○ 入江泰明氏がスターゼンMP代表取締役社長に一スターゼン6月1日付人事

スターゼンは10日、6月1日付の人事異動を発表した。

▽スターゼンミートプロセッサ代表取締役社長を解く、常務取締役兼常務執行役員茂原馨▽スターゼンミートプロセッサ代表取締役社長(スターゼンミートプロセッサ取締役副社長)取締役兼上席執行役員兼スターゼンファーム代表取締役社長入江泰明▽スターゼン販売常務取締役特命担当部長(プロジェクト本部特命担当部長)執行役員柄澤達也。